

学校連携共同ワークショップ  
おとなりアーティスト

2022





# よしもと みか ワークショップ

## 「私の「いま」を色と形で表現してみよう。」

テーマは、「私のいまを色と形で表現してみよう」です。よしもとさんと各学校の先生が相談し、巨大なロールキャンバス、ハガキサイズのワトソン紙、プラスチック板、画用紙、オイルパステル、アクリル絵の具、音楽など、子どもたちに合う画材や素材を選び、それぞれに異なるプログラムを展開しました。また、よしもとさんは、心と体を存分に使いながら集中した後の鑑賞も大事にしています。そこには、ゼロから生み出した作品をみんなで味わい、作りながら感じたことを通して自分の感性を磨く子どもたちの姿がありました。

### ワークショップ会場

- ▶ 会津坂下町立坂下中学校
- ▶ 会津若松市立第二中学校
- ▶ 小野町立小野小学校
- ▶ 西郷村立米小学校
- ▶ いわき市立小名浜第三小学校



### よしもと みか

移動絵本図書館 みず文庫

みず文庫は、福島県天栄村で出会った、イラストレーター・コーディネーターのよしもとみか、木工職人の矢板桂佑、編集・ライターの江藤純で活動。東日本大震災をきっかけに版画家の蟹江杏氏が世界中から集めた絵本の一部を預かり、2013年から車で移動する絵本図書館を開始。県内イベントを中心に展出し、絵本のよみかせやワークショップを展開し、親子の憩いの場として親しまれている。2019年より、絵本作家さんと遊ぼうの会を企画・主催(年1回)2020年福島民報社の企画・制作の絵本『きぼうのとり』の絵(よしもと)と文(江藤)を制作。翌年、福島民報社より発行。2021年5月より、白河市の南湖公園内にアトリエを構える。



## 9/15(木) 会津坂下町立坂下中学校(文化部)

26名参加

全長10mのロールキャンバスを囲んで座り、目を閉じてよしもとさんの話に耳を傾けていると、いろいろなアイデアが浮かんできます。目を開いたら制作開始。真っ白なキャンバスに赤、青、黄のアクリル絵の具で描き始めます。「今日好きな色は、今日だけのもの。明日は違う色が好きかもしれない」「どんどん手を汚しましょう」と話すよしもとさん。じわじわ解放されていく生徒たち。

オイルパステルも追加して、余白や自分で描いた絵の上に塗り重ねます。仕上げに白い粉をかけ、オイルパステルの油を落ち着かせたら完成！圧巻のスケールでダイナミックに描いた作品を、音楽に例えるなら多様な楽器が響き合う、躍動感あふれるシンフォニー。大作を眺めながら生徒たちは、満足感と達成感を味わいました。

# 9/29(木) 会津若松市立第二中学校(美術部)

11名参加

プラスチック板と白いシール紙、オイルパステルで、私のいまを色と形で表現しました。まず、やすりをかけたプラスチック板に、好きな形に切ったシール紙片を6、7枚凸凹になるように貼ります。「何ができるかわからないことを楽しんでほしい」と、よしもとさん。オイルパステルを使い最初は1色で、その後色を塗り重ねます。深く深く集中していく生徒たち。色を塗り終えたら白い粉をかけてオイルパステルの油を落ち着かせます。次

はスクラッチ。割り箸で模様を削り出した後、プラスチック板を好きな形に切り、台紙に貼り付けて完成です。11の個性的な作品が独特の存在感を放つ中、始まった鑑賞会では、「どれも違うので見ていて楽しい」「どんな作品になるのか分からなかったけど、最後に自分の個性がでた作品になった」などの感想が。生徒たちは、みんな違ってみない。アートには「こうしなきゃならない」がないことを、しっかり受け止めていました。





## 10/13(木) 小野町立小野小学校(5年生)

75名参加

数字をモチーフに表現しました。体育館に集まった75人の子どもたちは、2011年4月2日から翌年4月1日までに生まれた小学5年生。みんないつもと違う空気感に興味津々です。導入でよしもとさんが、谷川俊太郎さんの詩「自分をはぐくむ」を紹介しました。次に自分の誕生日を西暦にした中から好きな数字を4つ選び、正方形の紙に書いて画面を分割。オイルパステルで色を塗った後、気になる線や強調したいところを太くしたり、模様を描いたり。さらにオイルを浸した綿棒

でその上を擦っていくと色が柔らかく伸びて混ざったり、グラデーションになったり。同じ作品は一つもありません。鑑賞会では、子どもたちから「今までの人生で一番楽しかった」「みんなの作品を見ているうちに、みんなの個性が見えた」などの声が。最後によしもとさんは、「自分を発見することで、谷川さんの詩の通り、あなたはあなた自身を超えていくことができます」と、エールを送りました。

# 10/27(木) 西郷村立米小学校(1・2年生)

75名参加

用意したのは、画用紙とコート紙、赤・青・黄3色の色水と絵筆、ストロー、うちわなど。「アート活動は、楽しむことが大事です。楽しむ人!」と、声をかけるよしもとさん。「はい!」と、体育館中に響く子どもたちの大きな返事。早速、グループに分かれて大きな紙に色水を垂らしました。友達と紙の端と端を持って縦にしたり、斜めにしたり、紙の上の色水を動かすと、3色が混ざり合い複雑で幻想的な色調が生まれます。垂らした色

水をうちわでパタパタ扇いだり、ストローで吹き飛ばしたりする子どももいました。色がどんな風に変ったかなど、発見を話す鑑賞会では、「色を混ぜるとすごい色になった」「最初は黄色。最後は砂漠みたいになった」と1年生。2年生は、新しい色の発見を楽しんだことや、「ぞうきんを使って台風みたいにした」「紙コップをスタンプのように使った」など、色の変化をさらに進化させて楽しんでいたことを話していました。







## 11/17(木) いわき市立小名浜第三小学校(2年生)

59名参加

虹の七色は、♪ドレミファソラシ(ド)♪から来ていて、300年前に音と音の間と虹の七色に対応しているとニュートンは考えたのだそうです。ワークショップ会場が音楽室だったことから、よしもさんは共感覚\*の体験からスタートしました。ピアノの低い音を弾いて「どんな色が似合いますか?」と尋ねると、「黒!」「暗い色!」と、高い音には「明るい色!」「さっきより細い!」「薄い!」と、答える子どもたち。音から色や形のイメージを膨らませたら、絵の具の三原色を最初は手で、続

いて絵筆も使って描きました。「最初に手を使うのは、子どもたちの感覚を開くため。脳と手は直結しています」と、よしもさん。子どもたちは、三原色からたくさん色が生まれた紙を、好きな形に切ったり、ちぎったり、次々に楽しい作品が生まれていきました。お気に入りの作品がたくさん出来たこともあり、「持ち帰りたい!」という子どもが何人もいました。

\*音楽を聴くと音だけでなく色を感じ取ったりするなど、一つの感覚に伴ってほかの感覚が動く現象のこと。

指は筆と違って、筆にはない面白さがあって楽しかったです。初めて指で絵を描いたので、わくわくしました。

自分なりの絵が出来て良かった。手や足に絵の具を塗って絵を描いたのが面白かった。自分の絵はかなりヤバい感じになったが、もうこれはこれでいいと思った。

自由に描くことができてすごく楽しかったです。普段「人」しか描かないので、たまにはワークショップでこのようなこともしてみたいと思いました。

「汚しても怒られない!こんなチャンスは滅多にない!」と言わんばかりのいきいきのびのびと楽しそうに取り組む表情が印象に残りました。(教員)

手や足を使って絵を描くことはあまりなかったから、楽しかった。カップがパレットみたいになっていて綺麗だった。友達と絵の具を付け合ったりして楽しかった。大きな絵をみんなで描いたのが楽しかった。

手にべったり絵の具を付けたのは久しぶりで、最初はためらったけど、描いているうちに気にしなくなっていました。

数字だけで芸術が出来るなんてすごいと思いました。芸術ってこんな楽しいんだと思いました。

子ども達だけではなく教師も学ぶことができるよい機会となりました。(教員)

よしもと みか  
ワークショップ

# アンケート

絵の具のつけ合いも楽しかったです。また、このようなことをしたいです。

「自由に絵を描くこと」って、とても楽しいんだなと実感しました。

みか先生の「正解はない」という言葉を聞いて、やる気が出ました。ありがとうございました。

みんなで紙を動かして、気付いたら、虹色の模様になってキレイでした。

こんな最高の絵を描けて、とてもうれしかったです。やっていくうちに、集中して行って、楽しい、びっくりがとてもあり、楽しかったです。

画用紙に絵の具をポンとやったら、紫、ピンク、青の3色が1回に出ました。他にも私のお気に入りの色がいっぱい見つかりました。

ワークショップ後、絵などに色を染める時の色づかいが鮮やかになりました。(教員)

みんなの絵が1つになっていて素敵だなと思いました。

よしもと みか  
ワークショップ

# アンケート

全く予想のつかない作品が出来て楽しかった。作品をつくってる時も、不思議な方法で仕上げたって面白かった。また機会があったら、参加してみたいです。

私が何を描くか決まらなかった時みか先生が「ゆめちゃんは形だけ見てるんだよ。色だけ見てみな、いろいろな色が浮かび上がるよ。」と言ってくれて綺麗な色が作れました。

私はこういう絵が好きで、楽しくて、学べて、新しい道へ進むカギなんだと感じました。

子どもたちの発想が、どんどん広がって行って、見ていて楽しかったです。(教員)

楽しかったので、またやりたいと思いました。家族で作って、飾りたいと思いました。

手で絵の具を触ったのは初めてです。赤青黄色で様々な色が作れたのが凄かったです。私は、紫が気に入りました。

親しく名前呼びかけたり、褒めたり、特別支援の生徒に対しての先生の接し方が素晴らしかった。(教員)

手に絵の具を塗ってポンポンしたり、ぐるぐる回りながら描いたりしたのが楽しかった。

何を描くか迷ったけど、描いていくうちにどんどん夢中になっていきました。

みんなに左右されず、自分だけのもので、好きな色、好きなものだけで、こんなに素晴らしく、世界に一つだけの物が出来るなんて思いませんでした。

これからたくさんの「自分」を詰め込んで自分らしい作品を作りたいです。

3原色のみで沢山の色の濃さなど普段3色からは色をつくったりしなかったもので、3色の凄さがよく分かりました。

絵の具に触れたり赤青黄色の色で様々な色が作れるということが分かりました。楽しかったです。夕焼け小焼けの色が出来ました。

みんなで創り上げた絵を見たとき達成感が凄かった。

皆で絆を深めるようなことがあまり無かったのですごく良かったです。

素材に直接手で触れ、発想を広げていくことを通してモノづくりのシンプルな面白さに気付いたようにも思えた。(教員)

とても大切なことを教えてもらいました。それは、自分と見つめ合うことです。



# 作家からのメッセージ

## よしもと みか

【おとなりアーティスト】というネーミングがとってもお気に入りです。

この言葉を聞くだけで、隣の人はもしかしたらアーティストかもしれないと想像が膨らむからです。

スーパーで買い物をしている時に隣でネギを買っているあの人。

電車の中で目の前に座っているその人。

さっき車ですれ違った人。

レストランで、私の前に同じ席に座っていた人。

想像は膨らむばかりです。

今回は美術作家のアーティストという事でお招きいただきありがとうございます。

アーティストってどういう存在なんだろう。

形があるようなないような。

定義があるようなないような。

こどもの頃から漠然と、アーティストという存在はこういうものかと

雲を掴むような思いで考えていたかもしれません。

絵を描く人でしょうか。

音楽を奏でる人でしょうか。

芸術を極めた人でしょうか。

私はアーティストの事を“表現者”と捉えます。

あらゆる角度から事象を多角的に捉えて表現する人。

その表現の仕方は様々で、きっとまだ発見されてない表現方法もあると思います。

今日も私は生きている。

今日もあなたは生きている。

呼吸をする。

言葉を紡ぐ。

手を動かす。

生きていることで得ている感覚を自分なりの手段で表現する。

アーティストはきっと特別な存在ではなく、

とても身近な存在であると思います。

そんな中で、私を選んでいただきありがとうございます。

たくさんの表現者、アーティストに出会えて、私もとても楽しかったです。

まだ観ぬ表現をまたぜひ観てみたいです。

作品になるともうその瞬間から過去になり、社会の一部になってしまうけれど、

表現をしている時の時間こそ、周りをよく観て観察してみてください。

生きているアートに出会える瞬間です。

その時間を一秒でも多く味わって、たくさんの豊かな感情と心を持った人となりますように。

アートの時間を通して出会えて嬉しかったです。

ありがとうございました。

# FRIDAY SCREEN ワークショップ

## 「もりもりもじ！」

大きなテーマは「もりもりもじ！」です。私たちの周りに溢れている「文字」をモチーフにワークショップを開催しました。ふれあい教室では、「空間に自分の好きな言葉を植えよう」をテーマにデザインし、立体を作りました。郡山市立緑ヶ丘中学校でのワークショップは、「君×（駆ける） kimi-kakeru」がテーマです。郡山第一中学校の生徒と一緒に友達の走る姿に音をつけ、その音をデザインしました。

### ワークショップ会場

- ▶ 郡山市立緑ヶ丘中学校
- ▶ 福島市教育委員会教育研修課  
（ふれあい教室）



## FRIDAY SCREEN

### アートユニット

2015年「FRIDAY SCREEN」活動開始。

“From Local, For Local, With Local”をコンセプトに、デザインによる福島の地域資源の発掘と発信を目的に活動を行う。地域に密着したプロダクトやグラフィックといったデザインの仕事のほか、ワークショップイベントや朝市などの企画・運営をはじめ、他分野の専門家とコラボレーションした商品開発やワークショップを行うなど様々な活動をしている。



10/8(土)

# 郡山市緑ヶ丘中学校・郡山第一中学校

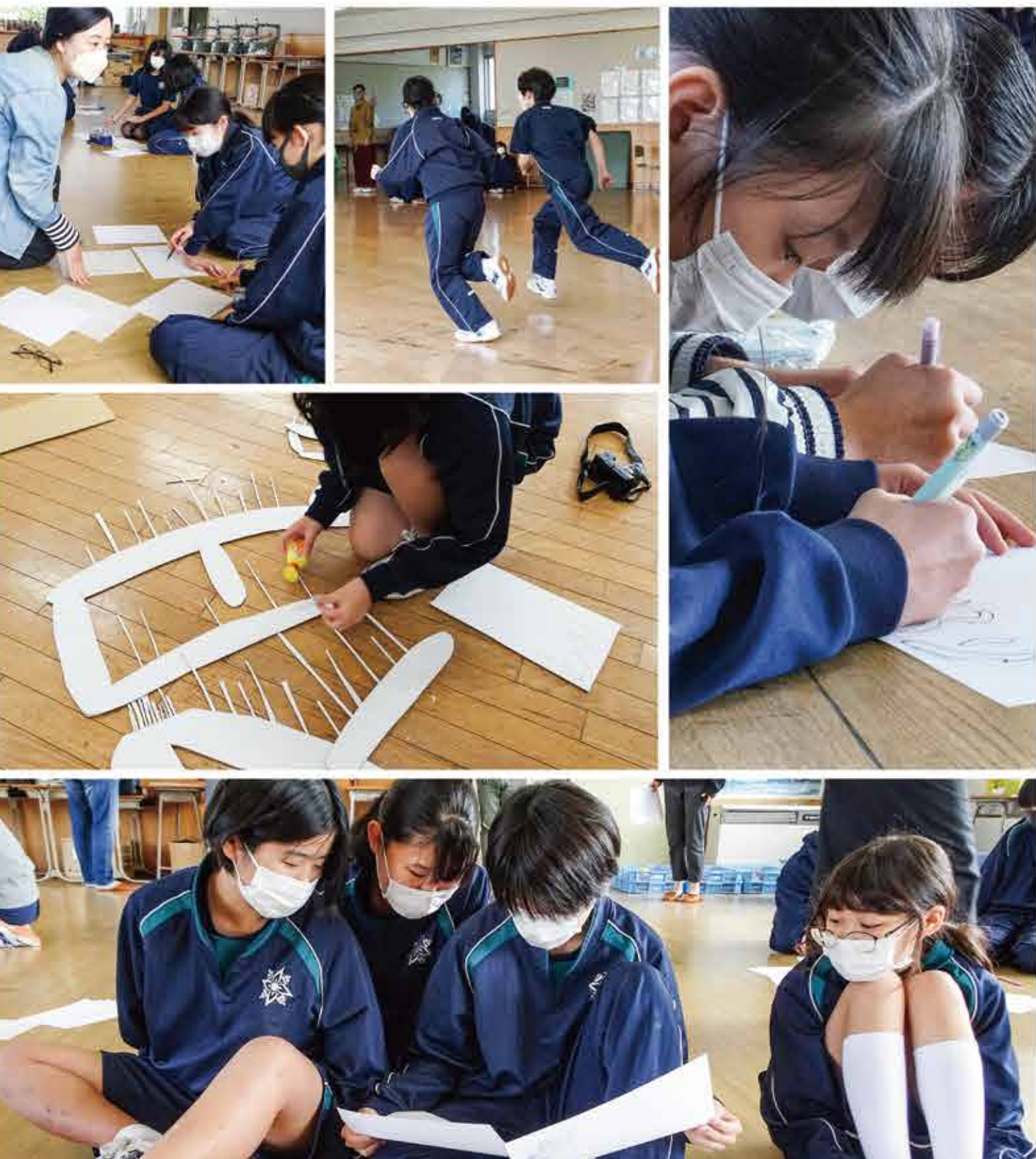
21名参加

(美術部)

郡山市内の2つの中学校の美術部の生徒たちが取り組んだワークショップのテーマは、「君×(駆ける) kimi-kakeru」です。人が走る姿は、とても個性が出ます。漫画でよく見かける効果音。友達の走る姿に、効果音をつけるとしたらどんな音になるでしょう。それを文字にするとしたら、どんなデザインになるでしょう。

最初に感じたことを言語化・イメージ化する「オ

ノマトペ」からスタートしました。おせんべいの硬さを言葉と文字で表現したり、「かきーン」「どろり」などの文字を太さ、向き、大きさを変えて表現します。そして、生徒たちは、みんなの前で自分の考えを伝えることで、抱いていたイメージの輪郭を濃くしていきました。「声にするとどれくらいの高さか?」「温度は?」など、講師の問かけが刺激となり視野を広く、思考が深まっていきました。







頭を柔軟にしたところで、ペアを組み交互にインタビュー。実際に走ってもらったりしながら、「友達の足音を考える」ワークに移りました。腕の動きやスピード、歩幅など、よく見て、考え、個性を言語化・イメージ化し、グラフィックにしていく作業は、会話も弾みます。中には、走り終わったとたん「お腹すいた〜!」という生徒も。確かに時計は、お昼間近。続きは、午後となりました。後半は、デザインと制作です。A4用紙にたくさん下絵

を描いた中から一つを選び、80cm×80cmの段ボール2枚を使って立体にします。講師からの課題は、「必ず友達と同じくらいか、それ以上の高さになる大きなものにする事」。時間の経過とともに見えてきたのは、「パムッパムッパムッ」「すっすっ」「ドウタツ」など、それぞれの個性が光る立体です。2校で行ったことで、生徒同士「こんな作品もあるんだ」という刺激もたくさん受けました。

# 10/25(火) 福島市教育委員会教育研修課

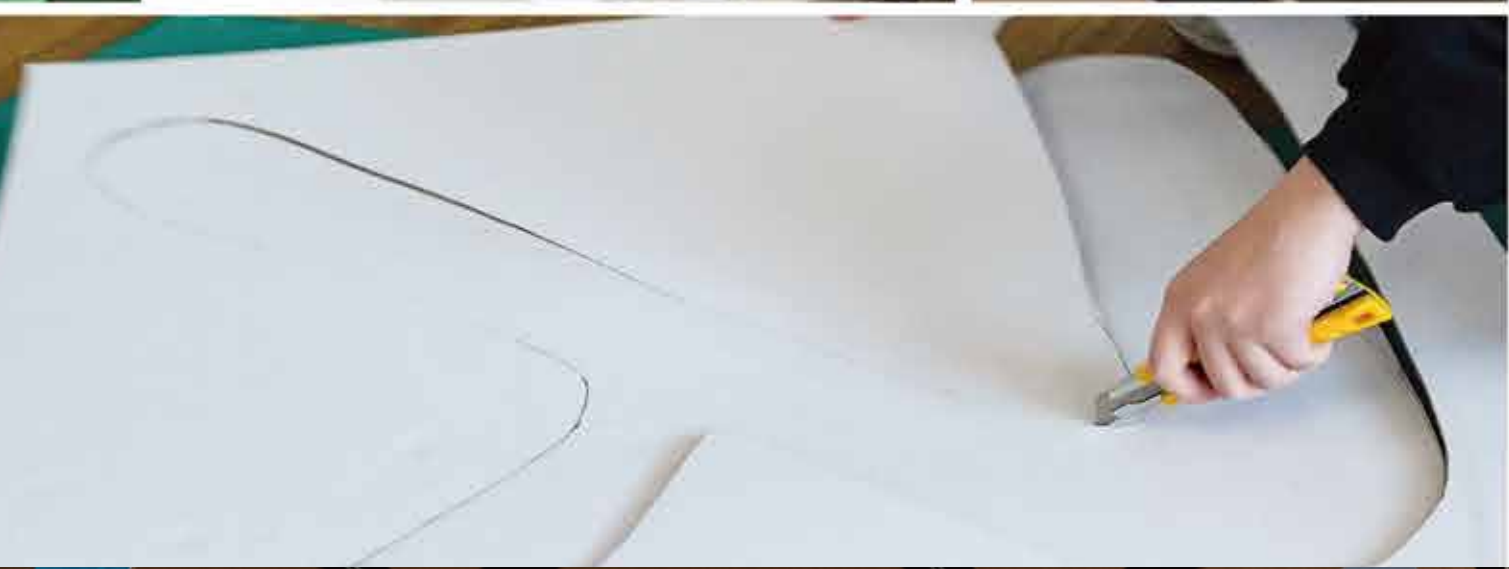
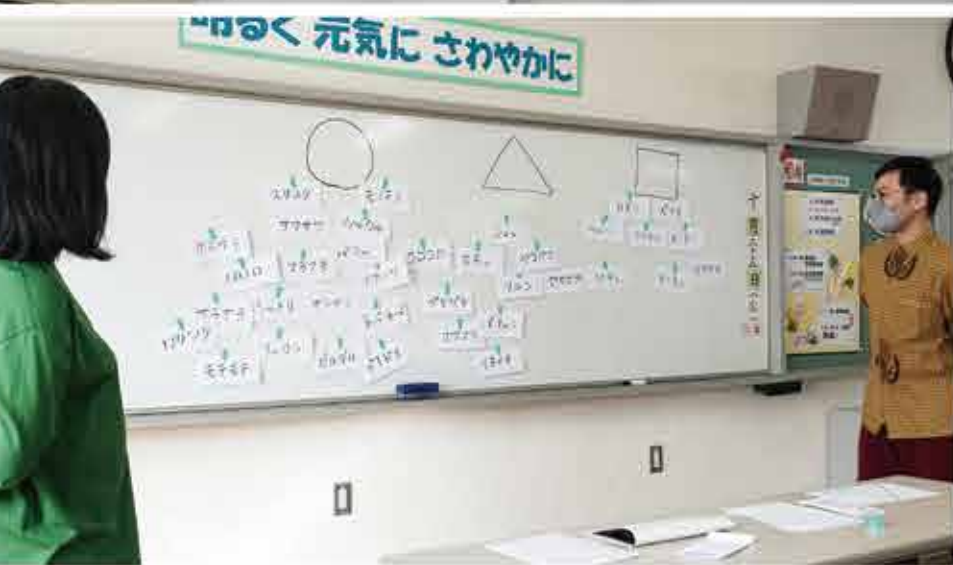
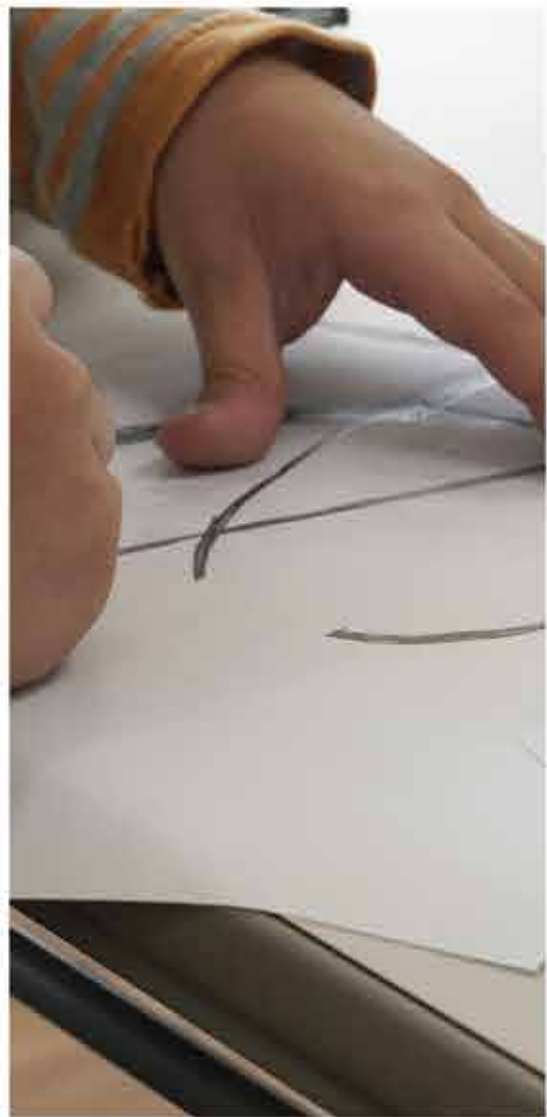
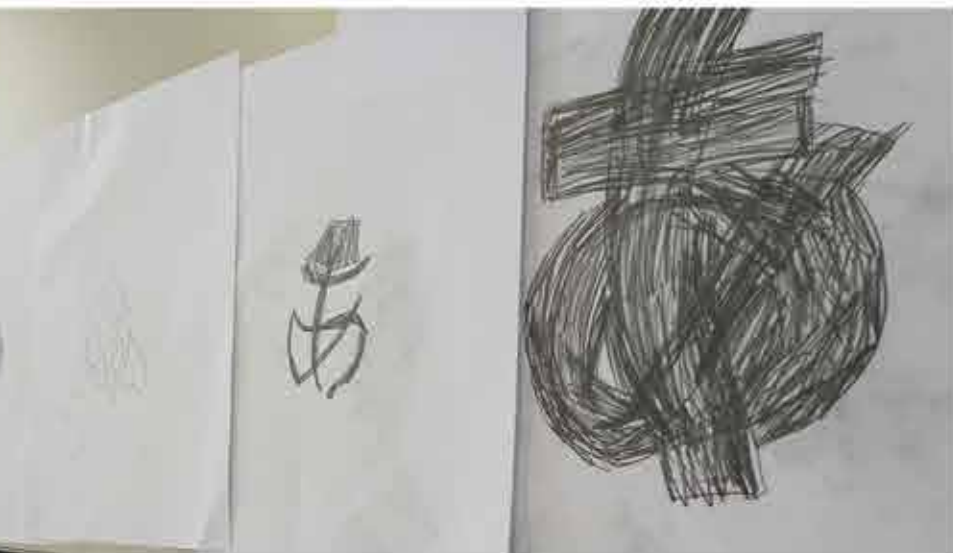
11/10(木) (ふれあい教室)

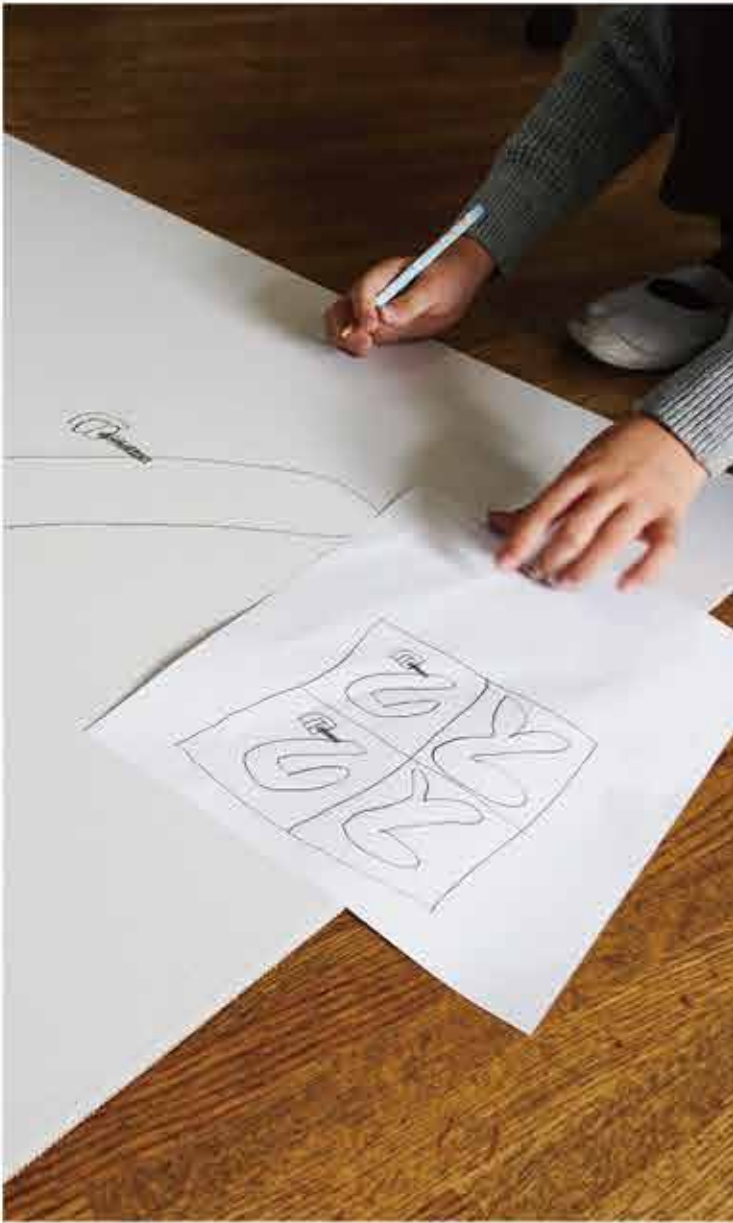
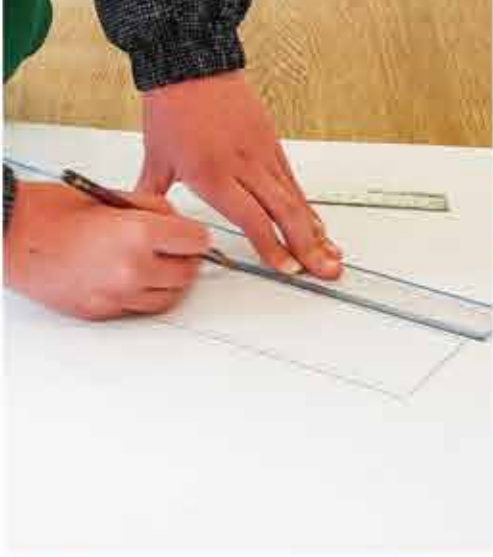
11/11(金)

延べ17名参加

「空間に自分の好きな言葉を植えよう」は、好きな言葉を「植物のような」デザインにして、言葉が地面から生えているように立体を作るワークショップです。初日はウォーミングアップ。ゲーム感覚でデザインのもとになるワークに集中する子どもたち。「おせんべいの音から感じる硬さを想像してみる」「オノマトペ(擬音語、擬態語)が、○・△・□のどれに当てはまるか想像してみる」「写真

を見てオノマトペを想像してみる」では、みんながイメージした形や大きさに違いがあることに気づきました。さらに講師の「なぜそう感じたか」という問いかけに答えることで想像を膨らませていきました。後半のデザインでは、A4の紙にできるだけ大きく「あ」を描いたり、触ると痛そうな「あ」、柔らかそうな「あ」、重い「あ」、軽い「あ」、喜んでいる「あ」など、いろいろな「あ」を描きました。





2日目は、デザインと造形です。宿題の最後の質問「元気が出てぐんぐん成長する効果音」からイメージした言葉のエスキース(下描き)を、鉛筆を使ってまるでデザイナーのようにたくさん描きました。縦書き、横書き、ひらがな、カタカナ、組み合わせもOK。可愛くしても、太くしても、重たくしても、丸くしてもOK。効果音を“その音”っぽく表現していきます。20~30個ぐらい描いたらお気に入り一つを選んでいよいよ造形です。エス

キースを見ながら段ボールからはみ出るくらい大きく下絵を描き、カッターで切り出していきます。最終日、切り出した文字をつないでいくと、どの子も自身の身長を超えるほど大きな立体をつくりあげました。中には、天井を突き抜けるくらい大きな立体も。後日、開催された成果展では、子どもたちの作品が、空間をいどり訪れた人を楽しませました。

いろんな「あ」が  
かけておもしろか  
った。写真を見て考  
えた言葉を、とろけ  
るように描くのが良  
かった。

緊張したけど楽しか  
ったです。お兄ちゃん  
とやりました。

オノマトペの作品づく  
りでは、自分の表現を  
しっかり出し、自分  
の中で最高の作品が  
出来ました。とても  
楽しかったです。

最初は何をやるのか  
分からなくて楽しい  
のか?と思った。次  
は図工みたいで楽し  
く出来たし、弟と協  
力できてよかった。

物に音を付けるのは  
難しかった。走るも  
のを言葉にするのは  
意外と大変でした。

初めは迷いながら小  
さく書いていたもの  
が、徐々に思い切り  
よく描くようになり  
、笑顔で表現して  
いく子どもの姿は、  
嬉しい発見となり  
ました。  
(教員)

他の人が自分と違  
う感じで感じている  
ものがあって面白  
いし、なるほどな  
と思いました。

とても難しく、す  
ごく頭を使いま  
した。ですが、頭  
の中でオノマトペ  
をいろんな物に連  
想させることで、「  
自分はこうだな」  
と思う納得でき  
るところにオノマ  
トペを埋めるこ  
とができました。

子どもが自ら動き  
出すことを待って  
下さり、決して急  
かすことなく見  
守って下さる講  
師の皆様に改めて  
感謝いたします。  
(教員)

大きい作品を自分  
の手や周りの手  
伝いがあったか  
らこそ、愛着が  
わきました。

FRIDAY SCREEN  
ワークショップ

# アンケート

友達の走りをよく見て、想像して、どんなオノマトペにするか考えたり、どんな形のフォントにするか考えるのが面白かったです。

友達と一緒に音の表現の仕方考えることができ、仲が深まったと思いました。

同じフォントでも、伸ばしたり反転させたり、位置を変えたりすると、全く違った感じになる事が、印象に残りました。

普段、気にすることがない場面やそれに合った擬音を探すことの新鮮みを感じました。

最初に形のイメージを貼ったり、走ったりして楽しかったです。次回もあるなら全力で楽しみたいです。

友達の走り方をじっくり見たことがないので、面白かった。「トュンツ」の疾走感が出せたと思う。

他の学校の生徒の作品や分類の仕方を見て、発見があって良かったです。

答え(正解)のない取り組みに、頭を使って悩み、もっと良い作品にしたいと時間ギリギリまで集中して手を動かす体験は新鮮だったと思います。  
(教員)

普段は個での活動がほとんどなので、対話して、じっくり考え、自分の体より大きな作品を夢中になって作る経験はいつまでも心に残っていくと思います。

表現の出来ない音をがんばって表現できたと思います。



# 作家からのメッセージ

## FRIDAY SCREEN

また今年度も事業に参加できとてもうれしいです。

毎回このお話をいただくと「さあ、今年はどんなふうに子どもたちに脳みそを使ってもらおうか」と考えます。いつもしていないことにチャレンジしてもらい、いつも使っていない脳みそに少しだけ疲れてもらう。決していじわるではなく、脳みそが少し疲れるってとても刺激的なことだと考えているからです。

今年は2校が参加してくれました。1校目は郡山市立緑ヶ丘中学校と郡山第一中学校の美術部のみなさん。1日だけの限られた時間でしたが、デザインの講義からアイデア出し、立体の制作まで行いました。今回も大人でも頭を抱えそうなテーマです。友達の個性を音と文字に入れ込んで作らなければいけません。そのためのトレーニングとして、前半の授業で思いつき脳みそを使ってもらいました。休憩時には持参したチョコレートをみんなに配ったほどです。それでもみんなやりきってくれました。子どもたちの想像力と体力の賜物です。2校目は福島市のふれあい教室。時間がたっぷりあったので、それぞれの工程をじっくり。それでも最後まで集中して、たくさん考えて、わたしたちが思ってもみない作品ができあがりました。子どもたちの力って、本当に計り知れないなと思うし、それを間近に見ることができるのは、わたしたちにとって貴重で勉強になることばかりです。もちろん、ふれあい教室でもチョコレートを配りました。子どもたちはひとりひとり個性を持ち、考えていることがあり、作りたいものがありました。それを直接見て感じることはできたのは、私達にとってもほんとうに幸運で刺激的な経験でした。成果展でご覧いただけたとおり、子どもたちの発想はとても大きくて素敵な作品として形になりました。

次の機会があれば、わたしたちはまたチョコレートを持って学校に伺います。福島県立美術館をはじめ、ワークショップをサポートして下さったみなさま、どうもありがとうございました。

# 作品展



福島県立美術館  
企画展示室B

2023年2月4日(土)~2月26日(日)  
▷ FRIDAY SCREENワークショップ  
▷ よしもと みかワークショップ

2023.0204~0226

## 作品展会場アンケート

- みんな伸び伸びと描いて気持ちが良いです。色づかいが斬新で人まねではなく、個性が出て素敵でした。
- ペムッペムッペムッと歩いてみたいと思いました。
- 「君×」のワークショップが興味深いものだった。物や動作から受ける感覚を言語化し、その言葉をデザインするというアプローチは思考実験としても面白い。普段仕事上、論理的・合理的な考え方をしなければいけないので今日は良い刺激を受けたと思います。
- 良い絵ですね!!
- 子どもの作品が展示されていたので見に来ました。当日作ったものがより素敵に展示されていて、本人も嬉しそうでした。
- 子どもたちの思い切った手形に圧倒された。大人は何か描くときにあそこまで大胆にはなれないと思った。
- 子どもさんたちの、元気に描いている姿が目に浮かび、楽しい気持ちになりました。
- 子どもたちの内面が伸び伸びと表現されていて素晴らしかった。
- 最後のかけるの言葉・表現を文字におこして動画にもしているところが面白かった。
- グ→ンの迫力!!すごかったです!!作品もそうですが展示方法にも圧倒されました。
- 私も学生の頃に体験してみたかったなと思います。子供たちの楽しそうな雰囲気から伝わってきました。
- 素晴らしい取り組みだと思います。途切れることなく、こういった活動(WS)を、各地域で行っていただき、子供たちの豊かな感性を育てていただきたいです。
- 教科書や学校では出来ない表現方法に触れられてとってもいいです。
- とても良かったです。個性がそのまま出せる場所になっているのかなと思いました。
- 子どもたちが幼いうちからこういった活動を通して経験値を上げることは刺激になって良いと思いました。
- 表現するという事に触れる良い機会だと思います。





## アートによる新生ふくしま交流事業

芸術活動を通して被災地の地域コミュニティの支援や心の復興を図る「アートで広げるみんなの元気プロジェクト」及び、子ども達に学校では体験できない創作の機会を提供する「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」を実施しています。

## アートで広げる子どもの未来プロジェクト

福島を未来を担う子ども達に、将来「新生ふくしま」を推進する人材として活躍してもらうため、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを実施することで、心豊かな成長を支援します。

アートによる新生ふくしま交流事業「アートで広げる子どもの未来プロジェクト」  
学校連携共同ワークショップ「おとなりアーティスト 2022」

制作・編集 福島県立美術館、認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島  
写真 大北 孝、内野 由美子、白木 ゆう美、濱田 洋亮  
デザイン 有限会社デザインングマーブル

主催 福島県  
事業受託者 認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島

### 【お問合せ】

認定特定非営利活動法人ドリームサポート福島  
福島県福島市三河北町2-8Coco Mezon1階B室  
TEL 024-563-1955 FAX 024-563-1955 E-mail info@f-jdi.com



OTONARI ARTIST  
2022

この事業は、国内外からお寄せいただいた寄附金をもとに達成された「福島県東日本大震災子ども支援基金」により実施しています。